（第3種郵便物認可）　第17331号　夕刊デイリー　2019年（令和

後藤勇吉生誕123メモリアル飛行大会

夢を乗せて大空へ

模型飛行機の滞空時間競う

延岡

延岡市出身で〝空の先駆者〟とたたえられる後藤勇吉（1896～1928年）にちなむ「生誕123メモリアル飛行大会」は3日、延岡勤労者体育センターなどであった。市内の小学生32人が参加。手作りの模型飛行機を飛ばし、その滞空時間を競った。

大会は、勇吉が追い続けた夢とその行動に学んでもらおうと、延岡顕彰会（柳田慎司会長）が毎年開催。今年は勇吉に関するクイズと模型飛行機の2本立てで実施した。

飛ばしたのは、発泡スチロールで主翼と尾翼を作り、ゴムを動力にプロペラを回転させる模型飛行機。同センターでの機体製作では、延岡ラジコンクラブ（島崎一会長）会員の指導で、角度を微調整しながら理想のフォームに近づけ、主翼に自分の夢を書いて完成させた。

この後、近くの妙田緑地公園へと移動。勇吉生誕からの年数と同じ123回プロペラを回し、ゴムにエネルギーを蓄え、合図と同時に手を離して大空へ〝テークオフ〟。風に乗ってゆったりと飛ぶ機体もあれば、すぐに着陸してしまう機体も見られた。予選と決勝で計3回飛ばし、榎本拓叶さん（西小6年）が優勝した。

昨年に続いて2回目の参加となった榎本さんは「前回は予選敗退だったけど、今回は10秒台が出せてよかった。夢の航空整備士は責任が大きい。プレッシャーに負けないように頑張りたい」と話した。

榎本さんを除く入賞者は次の通り。

▽準優勝＝梅田凌弥（東海東小5）▽第3位＝松井照展（旭小3）▽会長賞＝船越龍星（緑ケ丘小1）▽理事長賞＝遠田航平（同4）

手作りの模型飛行機で滞空時間を競った「後藤勇吉生誕123メモリアル飛行大会」

保護者と協力して模型飛行機を組み立てる子たち

【後藤勇吉】

1896（明治29）年、延岡市南町生まれ。1921（大正10）年、日本初の一等操縦士、一等飛行士の免許を取得し、日本初の旅客輸送や郵便輸送に成功するなど旅客輸送空路を開拓。日にも成功した。27産物の空輸を実が、翌年2月29日離飛行の訓練中に墜落、33歳の若を落とした。

2019.5.14